

「（仮称）市民交流センター」整備計画（案）に関する提出された意見・意見に対する市の考え方（回答）

項目	件数
施設計画の立案に関する意見	5件
施設の利用方法に関する意見	19件
施設の設備に関する意見	9件
施設周辺の整備に関する意見	6件
施設の立地に関する意見	5件
その他の意見	3件
計	47件

6-1

項目	提出された意見	市の考え方（回答）	担当部課
施設計画の立案に関する意見	<p>市民の意見集約方法</p> <p>医療関係者、NPO、健康ボランティア、行政機関等により構成する「市民交流センター建設会議」を設立し、広く市民の声を聞きながら、施設設計や運営方法について具体的な計画を策定する。</p> <p>もっと時間をかけて計画を検討してはどうか。</p> <p>整備計画を白紙に戻し、市民参加による計画立案をするべき。</p> <p>市民とのワークショップ・大学との協定を活かすなど手法検討。</p>	<p>広い駐車場を要する場所として、この施設の有効活用を考えると、市民の皆さんの交流の場という基本的考えの中で整備計画（案）をお示しいたしました。今後、計画を具体化する上でパブリックコメントによる意見を参考としつつ、学識経験者、関係機関及びボランティア関係者等市民団体の皆様の意見もお伺いしながら、具体的な計画に向けて再度検討していきます。</p>	<p>企画部総合政策課 企画部市民まちづくり推進課</p>
施設の利用方法に関する意見	<p>国際交流協会の事務所を移設し、交流の場とする。</p> <p>交流の場（市民活動・外国人との相互理解）としての位置づけ。</p>	<p>市民活動団体の交流の場、日本人と外国人が交流できる場所としての整備は、国際交流協会の活発な活動と、公共性の高い多目的利用ができるものと考えられますので検討します。</p>	<p>企画部市民まちづくり推進課</p>
	<p>NPOやボランティア団体の活動と情報交換の場に。</p>	<p>ボランティア団体及びNPOは、その多くが自宅を事務所としているため、活動に必要な設備を整えた施設を考えています。また、現在、存在するボランティアセンターの役割を明確にして整備するとともに、この場を利用して団体間の横の連絡も可能となります。</p>	
	<p>外国人児童生徒に日本語の学習をさせる場とする。</p>	<p>外国人の子どもで市内の小中学校で学ぶ数が急増しています。初めて日本の学校で生活する子どもたちに、初歩の日本語や生活習慣を学ぶ「エスペランサ学級」の児童も急増しています。このことは可茂地区他市町においても同様な傾向です。本来の学校や学級へ入る前の「日本の学校プレ学級」として、地域設立を県に強く要望していきたく考えています。</p>	<p>企画部市民まちづくり推進課 教育部学校教育課</p>

項目	提出された意見	市の考え方（回答）	担当部課
施設の利用方法に関する意見	自治会連合会の事務所と「美濃加茂市危機管理センター」を設置する。 「コミュニティフロア」、「エコハウス」は賛成。	現在、自治連合会に関する行政事務連絡や要望等については、市が事務局を担当しているため、事務を当該施設へ配置することは効率上良くないと考えます。したがって、自治連合会の事務所設立と自治連合会を中心とした「美濃加茂市危機管理センター」といった施設をここに置くことは考えておりません。	企画部市民まちづくり推進課 総務部防災安全課
	不登校や引きこもり者の社会復帰の場にはどうか。	不登校児童生徒への支援や対応については、教育センターにおいて進めています。また、生活や学習に向かうエネルギーを蓄えて、学校復帰を目指す適応指導教室を「あじさい教室」として開設しています。文化の森来館者との触れ合いや、諸行事への参加など、成果が上がっています。不登校への対応については、教育センターで機能が果たせていると思います。なお、引きこもり者への対応については実態把握を含め、時間をかけて検討する必要があると思います。	教育部学校教育課
	美濃加茂市には「子どもの施設」が不十分、子どもの教育に係わる地域の施設を望みます。	文化の森や健康の森、御殿山キャンプ場など、子どもたちに利用されています。外国人の子どもたちへの就学を援助し交流を深める教育施設を検討していきます。	教育部学校教育課
	市民に対する保健事業の拠点とする。 市民の健康づくりの拠点とする。	当計画地は河川区域内にあることから、旧シュロスの1階の床高は洪水水位より上になるように計画してあり冠水しないと考えております。しかし、大雨洪水警報発令時等河川水位が高くなった場合には、駐車場の冠水前に施設利用の中止等の措置がとられることが予想されるため、当初予定をしておりました保健センターの移転については乳幼児及び高齢者等の利用が多いことから再検討することとしました。ご提案いただきました意見につきましては、今後の保健事業の参考とさせていただきます。	市民福祉部健康課
	乳幼児健診施設と子育て支援施設の合体した施設とする。		
	母親に対する食育の場とし、地元の食材を使った料理などを作りながら学ぶことのできる場所。	料理教室など料理体験のできるスペースは、既存の公共施設にある程度整備されていますので、それらとのすみわけを考えながら対応していきたいと思っております。	市民福祉部健康課 教育部学校教育課 教育部文化の森
	高齢者も訪れる場として、簡単な手芸教室などが開かれるところ。	高齢者の施設としては総合福祉会館を考えているが、簡単な高齢者向けの教室は考えていきたい。	市民福祉部福祉課
	日本にきたばかりの外国籍児童の生活対応と日本語学習の場として「エスペランサ教室」の整備を。	外国人の子どもで市内の小中学校で学ぶ数が急増しています。初めて日本の学校で生活する子どもたちに、初歩の日本語や生活習慣を学ぶ「エスペランサ学級」の児童も急増しています。このことは可茂地区他市町においても同様な傾向です。本来の学校や学級へ入る前の「日本の学校プレ学級」として、地域設立を県に強く要望していきたいと考えています。	教育部学校教育課

項目	提出された意見	市の考え方（回答）	担当部課
施設の利用方法に関する意見	<p>青少年の研修、活動を主目的とした施設にして欲しい。</p> <p>青年層（15歳から30歳）の活動の場、レクリエーションの場に。</p>	<p>青少年の研修の場としては中央公民館及び文化の森施設を、また、野外活動の場として御殿山キャンプ場を活用しているため、交流センターへの宿泊施設の設置及び交流センター周辺のキャンプ場の設置は現在のところ考えておりません。</p>	教育部社会教育課
	<p>個人やグループの趣味・文化活動の拠点にする。また防音設備のある部屋がほしい。</p>	<p>趣味文化活動、防音設備を持つスペースは、既存の公共施設にある程度整備されていますので、それらとのすみわけを考えながら対応していきたいと思います。</p>	教育部文化の森
	<p>美濃加茂市の観光拠点に。</p> <p>起業を目指す人のためのコーナーとしてアンテナショップを。</p>	<p>旧日本ラインシュロス美濃加茂市を代表する観光資源である日本ライン下りの乗船場に隣接し、ライン下りのシーズン（3月～11月）には多く（年間約25千人）の観光客が訪れます。また、平成18年4月の中山道会館のオープンにより中山道地域を周遊する観光客も増加しており、2つを有機的に結びつけることで地域の魅力をアップさせることができると考えます。よって（仮称）市民交流センター内に観光情報の提供及び特産品等のPR販売を行う「（仮称）みのかも交流観光センター」を設置し、来訪者へのサービス提供を進め、美濃加茂市の交流人口の拡大につなげていきたいと思います。当面は、観光情報の提供や特産品等の販売に重点を置きますが、将来的には様々な情報発信の拠点として位置づけていきたいと考えています。</p>	環境経済部商工観光課
施設の設備に関する意見	<p>100名収容できるステージ付の部屋があるとよい。また作品展示もできるような設備をもつ多目的室がよい。</p> <p>湯茶の準備ができる室があるとよい。</p>	<p>ステージもしくは展示機能を持つスペースは既存の公共施設にある程度整備しておりますが、使用目的に合わせ他施設とのすみわけを考えながら対応していきたいと思います。湯茶の準備は湯沸し室を設置する予定です。</p>	総務部財産管理課 教育部文化の森
	<p>各種の健診が日常的に可能な施設とする。</p>	<p>当計画地は河川区域内にあることから、旧シュロスの1階の床高は洪水水位より上になるように計画してあり冠水しないと考えております。しかし、大雨洪水警報発令時等河川水位が高くなった場合には、駐車場の冠水前に施設利用の中止等の措置がとられることが予想されるため、当初予定をしておりました保健センターの移転については乳幼児及び高齢者等の利用が多いことから再検討することとしました。ご提案いただきました意見につきましては、今後の保健事業の参考とさせていただきます。</p>	市民福祉部健康課
	<p>憩いのスペースの設置。</p>	<p>一階にはカフェテリア、二階にはリラクゼーションルームを設置予定ではあるが、詳細については今後検討してまいります。</p>	総務部財産管理課

項目	提出された意見	市の考え方（回答）	担当部課
施設の設備に関する意見	道の駅のように、青空市場やワンコインレストランがあるとよい。  高齢者の作った作品や野菜を売るところ。	旧日本ラインシュロスが美濃加茂市を代表する観光資源である日本ライン下りの乗船場に隣接し、ライン下りのシーズン（3月～11月）には多く（年間約25千人）の観光客が訪れます。また、平成18年4月の中山道会館のオープンにより中山道地域を周遊する観光客も増加しており、2つを有機的に結びつけることで地域の魅力をアップさせることができると考えます。よって（仮称）市民交流センター内に観光情報の提供及び特産品等のPR販売を行う「（仮称）みのかも交流観光センター」を設置し、来訪者へのサービス提供を進め、美濃加茂市の交流人口の拡大につなげていきたいと思っております。当面は、観光情報の提供や特産品等の販売に重点を置きますが、将来的には様々な情報発信の拠点として位置づけていきたいと考えています。	環境経済部商工観光課  環境経済部商工観光課 市民福祉部福祉課
	伝承料理を作って食べることのできるスペースを。	料理教室など料理体験のできるスペースは、既存の公共施設にある程度整備されていますので、それらとのすみわけを考えながら対応していきたいと思っております。	教育部文化の森
	ゼロ歳から高齢者までが、一緒に伝承遊びのできるスペース。	FROM-0歳プランの方針からも「ふれあい」や「交流」の場確保は大切だと考えます。これらの場は、文化の森、健康の森、総合福祉会館を中心にしながら進めています。子育て支援センターや健康課との連携は0歳からの子どもたちの健全育成に重要であり、現行の連携を一層充実していきたいと思っております。	教育部学校教育課
	青少年に関わる施設として、宿泊施設、キャンプ場、青少年団体の事務局などの整備を。	青少年の研修の場としては中央公民館及び文化の森施設を、また、野外活動の場として御殿山キャンプ場を活用しているため、交流センターへの宿泊施設の設置及び交流センター周辺のキャンプ場の設置は現在のところ考えておりません。	教育部社会教育課

項目	提出された意見	市の考え方（回答）	担当部課
施設周辺の整備に関する意見	河川敷緑地を利用したアウトドア型の健康増進施設を整備する。	当計画地は河川区域内にあることから、旧シュロスの1階の床高は洪水水位より上になるように計画してあり冠水しないと考えております。しかし、大雨洪水警報発令時等河川水位が高くなった場合には、駐車場の冠水前に施設利用の中止等の措置がとられることが予想されるため、当初予定をしておりました保健センターの移転については乳幼児及び高齢者等の利用が多いことから再検討することとしました。ご提案いただきました意見につきましては、今後の保健事業の参考とさせていただきます。	市民福祉部健康課
	<p>周辺には野外活動施設の整備を。</p> <p>中之島デイキャンプ場の設置。</p>	青少年の研修の場としては中央公民館及び文化の森施設を、また、野外活動の場として御殿山キャンプ場を活用しているため、交流センターへの宿泊施設の設置及び交流センター周辺のキャンプ場の設置は現在のところ考えておりません。	教育部社会教育課
	木曾川を有効活用したレジャー施設の整備。	旧日本ラインシュロスは美濃加茂市を代表する観光資源である日本ライン下りの乗船場に隣接し、ライン下りのシーズン（3月～11月）には多く（年間約25千人）の観光客が訪れます。また、平成18年4月の中山道会館のオープンにより中山道地域を周遊する観光客も増加しており、2つを有機的に結びつけることで地域の魅力をアップさせることができると考えます。よって（仮称）市民交流センター内に観光情報の提供及び特産品等のPR販売を行う「（仮称）みのかも交流観光センター」を設置し、来訪者へのサービス提供を進め、美濃加茂市の交流人口の拡大につなげていきたいと思っております。当面は、観光情報の提供や特産品等の販売に重点を置きますが、将来的には様々な情報発信の拠点として位置づけていきたいと考えています。	環境経済部商工観光課
	身障者カヌー教室。	この川辺はダムの下流であり、流れも強いように感じられる。この地が適しているか見極めたい。	市民福祉部福祉課
	自然林を活用した整備方針。	本計画地付近の自然林は木曾川の緑豊かな河川敷が広がり、河川景観を保全することは必要と考えております。	建設部都市整備課

項目	提出された意見	市の考え方（回答）	担当部課
施設の立地に関する意見	<p>水害の危険性が想定されることや、河川の水位上昇による施設の閉鎖が起きると、施設の運営に支障をきたすと同時に、市民の利便性と信頼を損なう。基本構想から見直しを。</p>	<p>入り口の交差点を改良し、歩道も設けた進入路を建設するよう安全対策に配慮し計画しています。また、河川区域内にあることから、旧シュロスの1階の床高は洪水水位より上になるように計画しており冠水しないと考えております。しかし、大雨洪水警報発令時等河川水位が高くなった場合には、駐車場の冠水前に施設利用の中止等の措置がとられることが予想されるため、当初予定をしておりました保健センターの移転については乳幼児及び高齢者等の利用が多いことから再検討いたします。</p>	総務部財産管理課
	<p>保健センターは普段から高齢者や障害者が集まるところ、通いやすいところに設置すべき。</p>		市民福祉部健康課
	<p>大雨で施設が閉鎖されると市の業務が停滞しないか。</p>		総務部財産管理課
	<p>保健センターは乳幼児を連れた人や高齢者の利用が多く太田橋付近は危険でないか。</p>		市民福祉部健康課
その他の意見	<p>自動車を運転できないものや、太田・古井地区以外のものにとって、公共交通機関が十分でないため、特に高齢者には大変不便になる。</p>	<p>施設整備の基本として、どなたにも安心してご利用いただけるよう駐車場の整備や信号機の設置などの諸整備を計画しています。また、公共交通機関として「あい愛バス」の路線設定も視野に入れ、利便性の向上に努めます。</p>	企画部総合政策課
	<p>現在、ボランティアセンターが2つあり、またボランティアの拠点を設置するのは市民を混乱させる。</p>	<p>ボランティア団体及びNPOは、その多くが自宅を事務所としているため、活動に必要な設備を整えた施設を考えています。また、現在、存在するボランティアセンターの役割を明確にして整備するとともに、この場を利用して団体間の横の連絡も可能となります。</p>	企画部市民まちづくり推進課
	<p>建物を全部取り壊しお金をかけず公園として利用するのがよい。</p>	<p>当地域は、飛騨木曾川国定公園内であり、施設計画については木曾川の美しい景観に十分配慮した整備を検討したい。</p>	建設部都市整備課
<p>「子育て支援センター」と「高齢者の福祉事業」は、福祉会館で一貫して行えないか検討を。</p>	<p>現在、福祉会館では高齢者福祉事業とあわせて子育てサロン事業を行っていますが、子育て支援の拠点としては手狭であり他の施設を考えていかなければならないと思います。</p>	市民福祉部福祉課 市民福祉部児童課	